

令和7年度 野村ダムモニタリング委員会の議事概要について

○審議概要

◆委員発言、⇒事務局発言

1. 環境モニタリング等の実施状況

(1) 植物重要種のモニタリング

- ◆ 植物重要種は全て移植すると説明されていたが、今後、レッドデータブックが改編され種が追加される可能性があるが、その場合の対応はどうか。
- ◆ 愛媛県レッドリストに新たに追加された種が、この範囲に新たに見つかった場合には、その種は重要種として対応する必要がある。ただし、重要種ランクの低い種についても全て移植するかについては、個別に考える必要がある。
- ⇒ 重要種が追加された場合は、環境情報図や過去の調査成果を基に、改変区域については補足調査を検討します。また、状況を見て今後確認したいと思います。

(2) 生態系（上位性）猛禽類のモニタリング

- ◆ 結論として、事業区域から1kmの範囲では繁殖行動は確認されず、希少猛禽類の営巣はしていないと考えられる。また、忌避行動は確認されず、工事による猛禽類の影響は小さいと考えられる。
- ◆ 猛禽類は、自然環境の豊かさの指標である。調査結果では、6種類の猛禽類が出現している。また、周囲を見渡すと緑が豊かで生物多様性がある。生態系の頂点に立つ猛禽類は、多くの生き物によって支えられているので、この地域の自然は豊かである事が分かる。

(3) 水質のモニタリング

- ◆ 貯水池およびダム下流の水質について、環境基準または管理目標値を超過しているものが散見されたが、それらは改良工事による影響では無く、工事以前から見られる傾向であると理解した。
- ◆ 現在の水質状況で、ダム下流や近隣住民の方からご意見等はなかったか。近隣住民等からの意見があるのであれば、それらに対し、しっかり対応していくことが大切である。
- ⇒ 工事实施に関して、近隣住民等からの苦情・意見等は、水質に限らず無い状況です。

(4) 環境配慮措置の事例

- ◆ 大気環境の面で、粉じん、騒音、振動対策については、対応措置が適切に行われていることが確認出来た。
- ◆ 希少猛禽類が出現する豊かな環境も改変面積を小さくすることや騒音・振動などに配

慮するなど、環境配慮をしているからであり、そういうことが必要である。

(5) 環境全般のまとめ

- ◆ 外にご意見がなければ環境モニタリング等の実施状況について、事務局提案を了解し、「妥当である」と報告します。
- ◆ 治水、利水、生物多様性の確認は出来たが、今後は利用についても復活・推進を図って頂きたい。

2. 今後の事業工程

- ◆ 事務費は、どのような要因で増えているか。
⇒ 事務費は、職員給与や庁舎の光熱費等です。増加要因としては、近年の労務費や物価上昇によるものと考えられます。
- ◆ 将来的に変動の可能性のある不確定額を加味して算出している、とあるが、施設改良工事以外の項目は増額が入っていない。将来的な上昇は、どれだけ見込まれているのか。
⇒ 現段階において想定できる範囲で資料を作成しております。

3. オブザーバーからの意見

- ◆ 野村ダム改良事業は流域住民の安全・安心の確保のために着実に進められていること、また、河川環境だけでなく周辺の植生にも配慮して進められていることに愛媛県としても感謝申し上げる。
- ◆ 工事は順調に進んでいるとお聞きしたが、野村地区を始め肱川流域の生命・財産を守る大事な施設であり、また地域経済にも大きく影響を与えるものである。工期短縮の対策を講じているところではありますが、更なる1日も早い完成と事業効果の発現をよろしく願います。
- ◆ また、建設コストの縮減は色々と工夫されていることに感謝し、工事途中においても更なるコスト縮減をお願いします。

4. 審議結果

- ◆ 事務局から提案のあった1. 現在の工事状況、2. 環境モニタリング等の実施状況、3. 今後の事業工程については、「妥当である」と本委員会では判断する。

以上